



# 岐蘇林多

## 目次

滿州旅行記  
風塵百談  
林業家として渡  
鮮せんとする人  
に

## 文苑

山、山、山  
旅行中の印象  
第二學年旅行日  
誌  
上野動物園  
和歌

## 雜報

佛都便り  
學校記事  
會員消息  
大正四年度校友  
會決算

大正五年六月二十五日 第八拾號 每星期一刊 (日五廿月每) (日四十月六年四十四治明) (日四十月六年四十四治明)

## 南滿州旅行の片々

在京城 本多清右衛門

### 緒言

冬季休業を利用し往復十日間の短期旅行なるに不拘其旅行範圍頗る廣く且つ正月前後にして諸官衙及諸會社其他萬事休業の時なるを以て調査上至大の困難を感せり從て此に記するは極めて大体の事項に過ぎず尙一言申度は此旅行たる主要都市に足を入れたるのみにして從て其都市を中心として述ぶるに過ぎず然れ共滿州を知らんと欲せば先第一に主要都市を知らざるべからず諸氏は其御心にて閲讀せられんことを望む今旅行經路を示せば

京城—仁川—大連—旅順—奉天—安東  
縣—新義州—京城(歸着)

### 第一、大連

#### 一、沿革

大連は西曆一千八百九十八年(明治卅一年)露清兩國の間に締結せられたる追加條約に依り租借せられたる地なり元は青泥窪と稱する一寒村に過ぎざりしが西曆一千八百九十九年(明治三十二年)極東に於ける一大不凍港を建設せんとし東清鐵道會社をして大藏省令の下に清國人民より土地を買収せしめ地名を「ダリーチー」と改稱せり明治三十七年日露干戈相見ゆるに當り同年五月廿九日我軍此地を占領し同時軍政を布き翌三

十八年二月十一日地名を大連と改めたり

### 二、地勢

大連は遼東半島の隅漸く狹まり南西に突出せる關東半島の南端北緯三十八度五十六分東經百二十一度三十六分東西二里南北二十七町面積約一方里半北は大連灣を隔て柳樹屯と相對し東南は南山山脈に圍繞せられ南北に緩斜し漸次坦々たる平地となり山水の配合眞に佳なり而して大連灣は口を東方に開き灣内頗る廣く水深實に二十八呎埠腹優に万噸の巨船を抱擁するを得べし宜哉露國に於て巨萬の富を投じ東洋無比の良港を完成せんことをや

現今の埠頭は大露露國の建設に依るものにして占領後之を完成したるものなり即ち港は三つの埠頭に分つ第一埠頭第二埠頭第三埠頭是なり尙是等埠頭を保護する防波堤あり其長さ一つは一千貳百尺一つは一千貳百二十壹尺一つは二千八百五十尺なり之等の防波堤海中に突出するを以て灣内波靜にして鏡の如し第二埠頭には鐵道を敷きて人畜貨物の積卸に便せり

### 三、氣象

關東半島(關東半島と稱するは俗に關東都督府管内即我租借地を稱するものにして貔子窩及普蘭店以南の突出せる半島の謂也)は至る所丘陵起伏平地に乏し其大陸と接續する一部分を除けば全く海洋に圍まるゝを



以て其氣候は海陸の支配を受け冬季大陸の影響を蒙ること極めて著し強大なる高氣壓の北支那蒙古方面に現出する時は氣温降下し強烈なる寒氣連日に亘り寒威凛烈實に堪へ難きの思あらしむ然れども氣壓の高低部位南北の位置を轉換すれば忽如平穩快晴真に温和の天候を來す之朝鮮に於ける氣温と相類似し滿洲に於ても三寒四溫と稱し居

れり而して關東半島の氣候の特徴として氣層傾度の緩慢なる時期に於ては海洋的氣候の狀態を現はし晝夜寒溫の差甚しからず概して寡雨乾燥にして天氣良好なるも冬季は北風強烈其速度強大なり即滿州風と稱するもの之なり今參考の爲當地に於ける明治三十七年觀測開始以來の累年結果に基き主要なるものを擧げれば次の如し

Table with columns for temperature (最高, 最低, 平均), wind (平均, 最大, 最小), precipitation (日降, 總量), and months (1-12). It provides detailed monthly climate data for the region.

四、戸口 滿蒙に於ける邦人の發展に伴ひ且つ南滿州産業の勃興と共に益々増加の趨勢を示し今

や邦人の戸數九千六百四十八戸人口三萬六千七百八人の多きに達せり支那人戸數六千五百五十七戸人口三萬七千十七人を算す

唯外國人に至りては實に數ふるに足らず滿洲に於ける輸出入貿易は日露戰役前にありては營口の獨占する所なりしが大連が我國に歸して以來諸般の經營其緒に就き開港日淺きにも不拘急激なる進歩を來し遂に營口を凌駕するに至れり而して如何なる產物の輸出入あるやを見るに其種類頗る多く一々表示するの煩を避け主として林業に關係する種類のもののみを表示す

Table titled '大連港輸出入貿易表(單位海關兩)' showing trade statistics for various goods like cotton, wool, and other materials between 1912 and 1914.

六、物價及勞銀 物價は内地に比し一二割高率なるやの感あるも之れ内地に於て生産せられたる商品は荷造運送費等を要するを以て自然高率となるは止むを得ざるものとす而して物品に依

りては却て低廉なるものあり即ち貴金屬其他外國より輸入するものは關稅を要せざる故廉く又煙草酒の如きは内地に於ける戻稅の關係上却て低廉なり 勞銀は一般に低廉なるも内地人は生活程度高き等の關係上内地に比し賃金高價なり支那人は生活程度低きを以て從て勞銀低廉なり彼等勞働者の多くは一定の住宅を有せざるもの多く一日僅に十錢内外にて衣食し得べく苦力は一層簡易の生活をなし且力強く能く命令に服し又之を雇傭解雇すること容易にして便利也 今日重要品卸賣相場表をせば左の如し

Table of market prices for various commodities including rice, oil, sugar, and other goods, listing item names and their respective prices.

次に勞働者賃金表をせば左の如し 業名 日 本 人 支 那 人 大工 一、五〇 一、〇〇 木挽 一、七〇 一、〇〇 指物 一、七〇 一、〇〇 左官 一、八〇 一、〇〇 石工 一、八〇 一、〇〇 煉瓦積 一、〇〇 一、〇〇 疊職 一、八〇 一、〇〇 ペンキ職 一、七〇 一、〇〇 プリキ職 一、八〇 一、〇〇 鍛冶職 一、八〇 一、〇〇 活版植字 一、五〇 一、〇〇 洋裁縫 一、〇〇 一、〇〇 和裁縫 一、〇〇 一、〇〇 染色 一、〇〇 一、〇〇 土工夫 一、〇〇 一、〇〇 舟夫 一、〇〇 農苦力 一、〇〇 倉雜役苦力 一、〇〇

下女 支那人の賃金は小洋錢に依る、染色職工及下女は月額にして尙外に賄を給す 七、大連附近に於ける農林業の概況 一、農業 關東州内の耕地は普蘭店驢子窩附近より東海岸一帶は稍肥沃なりと雖も漸次南進するに従ひ丘陵多く殊に大連附近は一般に地味悪しきもの、如し作物種類は玉蜀黍(包米)及高粱を大宗とし全產額の過半を占む次は粟大豆にして大連の發展に伴ひ都會附近には蔬菜の栽培著しく増加せり然れども白菜の如きは山東より輸入し其の輸入額實に十萬圓の多き上ると云ふ從て近時都督府にては之れが指導獎勵に務めつゝあり果樹は關東州の氣候地質に適し有望なるも未だ之れが栽培に従事するもの極めて少く産出皆無と云ふも敢て過言にあらざるべし年々芝罘及日本より輸入するもの數十萬圓に上るが故に都督府に於ては同様之れが獎勵に腐心しつゝあり水田は老虎灘沙河口水泉に腐心しつゝあり散點するを見受けられども其の面積約三十町歩内外なりと云ふ從て成績の見るべきものなし 家畜の飼養は當地氣候に適し有望なるも目下都督府にて獎勵中に屬し未だ成績の見るべきものなし 牧畜業は殆ど見るべきものなく農家が單に



副業的に其の分に應じ自家用として飼育するに過ぎずして肉食用としては遠く朝鮮山東及蒙古等より輸入せらるると云ふ都督府にては之れが獎勵方法として金州に農事試験場の分場を設け斯業の獎勵に努め居れり

ロ、林業

關東州の地至る處禿山楮土にして南朝鮮の夫れの如く殆ど樹木なきが故に水源涵養土砂崩壊の防止其の他風致衛生上等より殖林事業の急務なるを認め我が租借以來銳意之れが實行及適當樹種の研究に力を盡し或は都督府直接の事業として或は民間の事業として之れが經營に務めつゝある結果近年稍其の面目を改むるに至れり即ち大連附近寺鬼溝柳樹屯臭水屯等の大連市街に面する山地及大連灣内各嶋嶼は官行造林地となし明治三十八年以來左表の如く實行せり

面積	種子量	苗木數	摘要
新植六三、三〇五、二八七、八〇、六八六	一、五三、五九	五三、五九	自明治三十八年
補植三三、七三三	一、五三、五九	五三、五九	自明治三十八年
計	二、〇七、一八三、三二六	一〇七、一八三、三二六	

植付樹種の主なるものは松柞(アカシヤ)等にして松「アカシヤ」等生育最も良好なり亦民間に對する獎勵としては明治三十八年山地の林木は勿論道路の並木及寺廟墓地等に生育せる凡ての樹木は其の官有たるに民有たるに論なく官の許可なく伐採することを禁じたるは之れ朝鮮と其の基を二つにせ

り更に大正二年林野保護取締規則を發布し造林地内に於ける土石芝草の採取放牧及火入れを制限する等其の必要に應じ山地所有者に營林上の施設を命じ得べきことを規定し以て森林の荒廢を防遏せり又明治四十一年以來都督府に於ては官有地を無償にて貸付し樹苗を下附し以て極力造林獎勵に努めつゝあり之れ朝鮮に多少其の趣きを異せり (未完)

### 風塵百題

石狩平原の一端上川にて 黒崎 函山

風塵百題を草し以て貴重なる紙土を穢さんとす輕きこと塵の如く動くこと風の如し是れ風塵と題せし所以也素より校友諸賢を益せしむるが如きこと能はざるは勿論又確固たる意見のある譯にはあらず只臆あるがために思ひ目あるがために見る其の感じたること見たることを時を定めず場所を選ばず隨所に思ひ隨所に書きしものなり紅塵萬丈は呎尺を辨せざるごとあり泰山の大を爲すも實は一末の塵より始まる大風一度起れば白雲飛揚し千波萬波を起す狂瀾怒濤も始は大海一滴の移動より起る宇宙間には全く無用なるものなき筈也余輩は此の意味に於て之を草せんとなす校友諸賢の御批判を乞ふ次第なり

### 蝦夷の春 (一)

春來れば蝦夷が嶋にも櫻哉 嗚呼此句は余の佛都を辭せんとする際長野赤十字病院に臥床中の我が敬愛措く能はざる會山子より賜はりしものなり渡道後これを誦するの時は其感慨又別して深きを覺ゆなり佛都を辭せし以來白駒の足早きはや四句を闕しぬ東都の春信はいま方に酣なり東台の花に滿都の少女雲の如く徂徠して風流の限りを汲まんとなす殊に今年には花下亂舞の御法度もとけて假粧粹容思ひ思ひに粧ひをこらし以て、落花不語、流水無心、自入池の風情を味はする也花の木陰に暮るゝも知らず上野の鐘に名残りを急がれて「明日は淺草飛鳥山こゝろ」に向嶋「三春の行樂は都門の人を空に憧憬せしむるなり實に古人が燭をとつて夜遊びし心ばわも偲はるゝにあらすや我が住む蝦夷の春は更に趣を異にす思ひ見よ」蝦夷住民は歳の半を白皚々裡に墊伏せしなり此間南の空に低く弧を畫して銷沈し居りし太陽も春分線に歸來するや漸やく其威力を見せ穹窿高く千萬條の金矢を投ぐるや有らゆる生氣を冷却せしめたる氷雪も遂に崩れて地に流れ野河の歌を呼び小山の眠りを覺まし天空は豊に水蒸氣を含みて陽炎を誘ふなりかくて北温帯に適はしき可憐の小草福壽草黄花アマナ等の春告顔なるは恰も二八の少女のその如くはららしく岸の白楊亦楊柳時を忘れずして緑の眉を開き雲雀連雀亦歸り來るなり漸次北進する陽光と

共に纏ては梅櫻桃李萬葉の雲を透りて五千方里は五彩紅紫に輝くならんや遠近の原野は若草萌れて天に續き澎湃たる長江藍を染めて倦り果てたる冬蟄の屍衣を脱ぐの時北温帯は正に甦の喜を味ふなり開けき天と豊饒なる地と十一州の山河は光明と生命とに滿ち二百萬の民は希望と努力とに活躍し森羅萬象歡喜の譜を合唱するならん

花の吹雪を袖に受けて酌む盃の泡たゞしく紅顔早くも褪せて苦き洋を飲ましむる妖艶の春(南國の春)と天地山川嚴冬の洗禮を経て生氣激刺渾身の努力を喚起する清新の春(蝦夷の春)と之れ南北氣分の好きコントラストに非らずや(四、一日山中にて)

### 萬事徹底的なれ (二)

余先月某日親友Tと旭川區なる某氏を訪問すべく市街を歩めり余等は只其處に到る爲めの道筋と大凡の距離と其人の姓名とを知りしのみなりき漸次進みて此處の邊ならんと思ひし或家にて訪問すべき家を質問せり家人教ゆらく「右隣りですよ」と噫諸賢よ斯くの如き云ひ方を如何に考へらるゝや余は如斯人の頭には明確なる標準(單位)なるものを自認し居らざるものと思料すかゝる青年の今日多數なるを思ひ慨嘆に堪ざる次第なり又先日大阪に開會せられし英語大會の記事を新聞紙上に見たり記事に曰

東北帝國大學教師ロトランド氏は其の講演に於て英米人と日本人の短所特性を比較對照し日本人の時間に関する觀念の薄きこと及日本人の直言直行を爲すことなきことと總べて曖昧主義なることを指摘し云々と我國人の社交にも業務の關係にも凡て虚禮多く情實纏綿として不必要の努力と時間を費やすことは實にローランド氏の言の如し余も亦斯くの如き東洋流否日本流の直言直行を嫌ひ不徹底なる曖昧なる行動を探ること日本人的短所弊處の最大なるものなりと思惟するものなり然れども世俗の常として不得要領なる人物を歓迎し面従腹背なる似非人物の世に用ひらるゝの奇觀を呈せり是れ周圍の氛圍氣の朦朧として濁渴せるためにあらざる乎

### 林業家として渡鮮せん とする諸君に (六)

星 加 正 雄

扱て御大典以來諸君と親しく語つて來た本渡鮮論も諸君の御最良に依つて既に六回の多きに及んだが愈々本紙を以て諸君と別れる事になつた渡鮮に就きてより以

長の委しめ事は誠に渡鮮して居られる先輩諸君に尋ねなれば好くおわかりになる事でもあるし又僕に質問してくれれば出来得る所迄は應答致しませうと云ふは聊か自分の所感を述べて別れたいのであるが所感と言つた所で高の知れた僕のことであるから相場も大抵定つて居るが或は歐洲戰亂の爲めに少しは騰貴したかも知れんこは無理もない事で歐洲戰亂と云へば今日でも山家育ちの三尺に足らない小供でさへも好く知つて居る誠に古今未曾有の大戦亂である、して此の歐洲戰亂は如何に世界の文明に影響を及ぼしたであらうか實に筆舌の及ぶ所ではあるまい

諸君圖を繕いて見給へ此の大きな地球の一隅に僅かに朱線を以て黒子位に示されて居るばかりの我が一小國に於てすら其の餘波を蒙つた事は既に諸君は御承知であらうかの歐洲からの輸入品は或は杜絶し或は減少し爲めに我が工業界並に醫學界に於ては特に驚く可き大波瀾を來した而し之れが我が國に於ける文明を促進させる一つの動機になつたかも知れん古人の金言にも必要は發明の母とか云ふが成る程そうであらう近來各所で藥品などは續々と發明せられる様である全く我が國の如きは却つて歐洲戰亂の爲めに人知れず此の二三年間に長足の進歩をして居りませまいか此れが十年も二十年も繼續したならば日本は世界第一の文明國



なるかも知れん而しては僕一人の想像に過ぎないのであるが僕はずら(一)現今國家の大勢を考へるに近時我が帝國に於ては此の歐洲戰亂の好期に乗じて頻に海外發展を期して或は南洋に或は南米に其の他各方面に向つて殖民事業に熱中して居る様であるがこは國家の發展策として尤も好い策略かは知らんが我々林業家に取つてはどんなものであらうか大いに研究する價値はあるであらう若し我々は發展するとしたならば一体何處の國であらうかかかりに海外に發展したとして他國の糞土に鬻ぎたる美林を仕立たとしたならばそれが國家に對して如何程の利益があるであらうかいは扱て置て現今我が國に於ける林業を顧みなければどうであらう本國に於ては最早林業を經營する餘地はないであらうか將又殖林するの餘地は一坪もないであらうか一体禿山の處分はどうするのであらうか僕は苦笑に堪へないのである近來我が國に於ける林業は頗る進歩したと云ふ事は嘗て耳にはして居るが我國全面積の六割以上を占むると云ふ絶体的林地に於て其の合理的林業の行はれて居るのは僅かに吉野地方の一小部分ばかりではあるまいか何故にかく林業は實地に於て發達せないのであらうかそれ共學理はまただられ迄に及ばないのであらうか僕は帝國に於ける林業の實地の學理に伴はない傾向はありせんかと思ふと實に遺憾に堪ない

いのである諸君も既に御承知であらうが昔は三大美林と稱して世に歌はれた木曾の美林はどうであらうか今以て其の姿を尋ねる事は出来ないではないか全く木曾の如きは林業の發達につれて益々荒廢したと云ふても左程誤りではあるまい誠に矛盾した話ではあるまいかとでもこんな事では駄目だ世の林業家たる者は聊か此の邊に意を注がなければならぬ林業家の國家に盡すの道は多種ではあれどもあるが中にも最も急務を要す可き者は即ち僕の曩に述べた所の禿山林地の處分問題であらう何れにしてもこは僕の論ずる所ではないから賢明なる林友諸君の御高察に任すとして過言の所は何處迄も容赦して戴く事にしよう猶ほ僕は一言添へて置きたいのは以上僕の述べた所は如何にも林業家の海外發展を非難した様に思はれるかは知らんが決してううではない畢竟するに海外發展として尤も都合好く尤も有利でしかも前途有望であるのは即ち朝鮮である云ふに過ぎないのであるどうか渡鮮してくれ給へ發展してくれ給へ本邦唯一なる木曾山林學校卒業生諸君よ林友諸君よ海外發展の如きは血氣旺盛なる青春の時代に限る骨を埋むる豈墳墓の地を期せんやだ願はば在鮮せる先輩諸君よ諸子の先見の明恰も神の如くである諸子は本校の爲め國家の爲めに特に奮勵努力せられん事を切に希望してやまないものである最早日も西山に

山山山 (上)

岩田生

旅行日記の中より  
優雅なれ廉潔なれと常に我眼前咫尺の間佇立して我等を導く温容慈母の如き駒ヶ嶽に見送られて其麓二千五百尺の高驛より延長一千哩日程十五日の旅に向ひて送り出しぬ  
豪氣なれ悠揚迫らざれと呼應の間に巍立して我等を訓ふる威嚴嚴父の如き御嶽は今日しも出で、我等の前途に幸あれと祈りしぬ  
汽車の煤煙を嫌ひてか輕兆浮華の風を厭ひてか昔木曾山(一)と謳はれし所謂木曾山は悉く沿道に影を止めざる中に獨り昔の姿なる賤母の森林は四季折々の粉態に中央線上下の旅客に自然美とか言へるものを送りて喜ばしめ中仙道藤栗毛の客に木の葉を送りて心細いぞか言へるやつを感せしむ  
静寂なる山より平和なる農村に出づ次第に山低く、而も鳥の羽落りたるが如きいたし、しき死山のみ連れり我等は之に山の名を惜みの土岐津、多治見邊りの禿山の中腹より濛々と立ち昇る黒煙を指して「あれは

何か」と問ふ者あり健康なる限り一日に三度は必ず厄介にならざるべからざる茶碗の生れ場所を未だ知らざる者一行の中において「米のなる木をまだ知らぬ」よりはましならんも世には最も大切なるものが最も閉却され易き之れに類する事亦多しとせず  
濃尾の曠野に出で、は山耶雲耶太陽は山より出で、山に入るものなりと考ふる山住の吾等の眼には今し我等の頭上に照る太陽は其の入るべき所を失ひて茫乎たる如く見ゆ  
參宮線に移りてより山は次第に近づきぬ黒松、樅、樟等の暖帯樹多ければ山色自ら木曾地方と異れり何れも一々數へ得るが如き疎林のみにて森林の洵美を感知せしむるに足るべきもの一もなし  
深山幽谷の居になれたる者が雄渾なる海上の景を慕ひ潮嗅き風と騒擾なる濤聲とに飽きたるものが閑靜なる山峽を戀ふるは之れ自然の情なり我等は今鳥羽町の後山日和山に登りて遙か南洋より來れる長風に浸りれば額を衝かん峽谷住の我等は今や此の滄溟に對して自然の最も雄大に最も幽玄なるに感せずんばあらざりき  
五十鈴川水源地方の山林濫伐の爲か可憐靈水が年を逐ふて涸れつゝありと先輩木村氏の談なりされど近年此の流域に造林をなし或は伐採を制限し或は保安林に編入する

など當局に於ては之が救済策に腐心せりといふ春に似たる平たき山のみ連れる龜山あたりを西に進むに従ひて秀峯翠巒争ひ起れり  
田村將軍鬼退治、孝子萬吉、關趾等歴史傳説に富める鈴鹿山は右手に見ゆる筈なれども地理に暗き我等が彼れが此れかと評議の中に山を轉じて見ゆなりぬ  
濃尾勢の凡山と濁水とに飽ける汽車は今や伊賀、伊勢の境山紫に水あきらかなる峽に入りぬ今朝浴みせし玉藻の香床しき二見瀉の潮風も爽快に覺ゆしが車窓より流れ入る翠嵐も亦無量の涼味を覺ゆしめぬ  
身は春の旅の樂しさに躍れども心は元弘の秋風に荒びぬ此の邊りならんぞ意を排して仰ぎ見れば果して小松宮殿下の御親筆なりといふ行宮遺蹟の四大文字の自然の大理石に鐫刻されたるが老樹の間に隠せり山麓を巻ける雲霞の如き賊軍も攻むるに難く守るに易き天嶮なれば押し登らん術もなく最早數十日の野營に倦めり山嶺を仰げば錦の御旗旭に輝ける下に幾千の將士冑の星を並べ鐘の袖を連ね儼然として大軍を俯瞰せり烈風起り迅雷轟く一夜賊の決死の勇士五十間に紛れて城に忍び入りて火を縱てば何かは堪るべき山上の諸坊炎々として燃え上れりすはこそと麓の大軍喊聲を揚げて城中に頼雪れ込めば主上は騒擾に紛れて逃れさせ給ひあはれ笠置は落ちぬふと我に返れば轟

々たるは轍のひびきなり三年前吾は此處に登りて一老僧より之等の物語を聞き以來折あらば今一度この心切なりしが此度此の山が旅程の外なるを恨みぬ汽車は斜陽に照されつゝ麥隴萬頃の曠野に出でぬ  
生駒、金剛、貴信、三笠、葛城、多武、畝火、香具、耳成、若草など名にし負ふやまど地方には登りて見たき山々羅列せり  
今宵陰曆十一日の月は果して三笠山より出でしや否やを見ざれども變らぬ千歳の光は坐ろ濃情の才人を偲ばしめぬ  
見るもの聞くもの一として古きものならざるはなき此の都にたゞ若草山のみは新しき氣に漲れり其處に若草と共に萌ゆ出でたるかと思はる小學生の一群が蝶の如く浮かれ舞ふ姿は未だ見ぬ土佐家の繪巻物もよもこれには及ばず  
白袴の衣が干されしより千度の春は過ぎて夏は來ぬ舒明帝が「取り鏡ふ天の香具山」と詠まれしが今は其の取り鏡へるは五六年十年生の松の疎林のみ畝傍、耳成、又然りあ、同時の頃誰が此の靈山に斧を入れしか、金剛山、金吾入道、正成の誠に従はざりし爲め一度賊軍に水の手切られて遂に落城せる赤坂城も月牙ゆる宵正成樂人に命じて櫓樓に管絃を弾せしめ長日の攻圍に倦める賊陣に其の妙音を透れば幾十萬の敵軍坐ろ懷郷の情にたへかねて大方家郷に逃げ歸れりといふ千破劍城のその櫓も今は無ければ



仰いで「幾度問天々不答」たゞ一抹の暮雲長く恨を引けるのみ

旅行中の印象

悠 久 生

關西地方修學旅行中我をして最も深き感動を起さしめ我心に最も強き印象を興へしめしは天津市に於ける彼の米國飛行家アール・スミス氏の宙返り飛行なりとす

第二學年修學旅行日誌

横井正守

五月十一日 木曜 明星の光淡れて曉風颯と新緑に訪づる、五月十一日の朝まだき吾等二學年生四拾餘名の健兒は希望と愉快とに充ち満ちし眼を輝かす意氣揚々として茲に修學旅行の途に上りぬ

五月十二日 金曜

瀧澤銀治郎

明くれば十二日名古屋城頭一點の雲もなく倒に立てる金鯱は爛々たる光を放ちて吾等一行を見送るに似たり七時八分停車場を發す車輪の軋轆と共に市中の樓閣白壁丹碧漸く雲烟に包まれて見えずなりぬ昨日詣でし熱田の宮を過り四顧茫茫たる麥畑の中を唯ひた走り走る七時四十分大府に着く彼の一世の英雄織田信長の驍將今川義元を一蹴し去りし桶狭間は驛より一里許なり此邊より小山の處々に隆起するを見る土質は赤埴にして矮松散點するのみ風景としては佳なり

に盡く將來信州伊那電と通せん日は信三の交通に一大革新を來さん三州の境を出で遠州に入れば先づ濱名湖の激瀧として五指を開きたる如きを見る周回二十三里とかや中に辨天島あり島中の古松、碧梢を垂れ蒼々たる湖水と相反映し右顧すれば洋々たる遠州灘見ゆる限り天空を浸して漁舟を浮へたる様宛ら慈母の懷に赤子を守るに似たり誠に天下の好避暑地といふべし夫より汽車は海と分れて暫く進む程に濱松に入りぬ北方は名にし負ふ三方ヶ原の古戰場なり聊か懐古の情を遣る中天龍の鐵橋にかゝれり該鐵橋は東海道中最長なりとか河水浴々去つて蒼溟に向ふを見る兩岸は一望千里の大平野なり是も東海道隨一と聞く牧野原の大隱道をくゞり駿遠の境に大井川の上流を渡る河原を見れば二少女の白脛を浸して嬉戯するありあり怒つては堂々たる百萬石の諸侯も渡るに由なからしめし猛河も平日は温容兒女の狎るゝに任せたり英雄豪傑の心事も亦此の如きか此邊平地と云はず山と云はず美事に刈込まれたる茶の樹を以て蔽はれ其間白手拭がぶれる娘子の甲斐々々しき粉装にて立働ける様えもいはぬ風情なり静岡を通り過ぎて江尻に着き豆蒸汽を備ひて三保に向ふ三保松原は駿河灣中の半島にあり白砂青松波に映じ松韻濤聲相和して自然の妙樂を奏する所松も亦奇趣を凝して舞踊すかと疑はしむ只憾くは此日天霞みて芙蓉の麗姿

下嶋俊二

天下の險たる箱根を越ゆるも愈本日とはなりぬ今日も空に一點の雲も無く吹く風も心地よく吾等を送るに似たり五時四十分の列車にて静岡を發す車窓より見渡せば黒松の林をたぎて岡といはす山といはす一面に青々とし生ひ茂れる茶畑の中に小兒等の汽車に向ひて叫び合へるも見ゆ白雪を戴ける富士は今日こゝろ左手に雲表高く聳えたる間もなく三嶋驛に着すれば此處にて下車し仕度を整へて三嶋神社に詣つ箱根の山路も愈々此處より始まると思へば元氣俄に百倍也我先にと出で立つ山路はすべて石臼大の圓石もて敷きつめられたれば歩行頗る容易に勾配も亦甚だ急ならず豫想せし程の險路にはあらず兩側の杉並木も音にのみ聞けて今は昔の俤を留めず王の事約三里にして頂上に達す是れ静岡神奈川兩縣の境界線なり夫より數丁にして芦の湖に至る此邊は幾百歳を經たらん鬱蒼として畫尙暗き大杉林に圍まれたれば始めて舊時の俤を忍ぶに足れり



湖水は澄鏡の如く湖土を通ふ白帆點を浮  
鴨の如し彼方の岡の上碧靄白雲優美にして  
閑雅なる建物は箱根離宮なり山々の峽より  
富士は此處にも姿を現はして青葉若葉の其  
間に一面の白扇をかけたる美景云はん方な  
し元祿の昔赤穂の浪士神崎與五郎が東下り  
の際立ち寄りし甘酒茶屋も此邊なりといふ  
一行は四方の景色に目を奪はれ足跡の疲も  
ち忘れて歩む程に箱根七湯の一なる湯本の  
里は眼下に現はれぬ一行皆躍りて喜ぶ湯本  
には曾我兄弟の墓を初めとして北條早雲及  
五代の墓所なる早雲寺早川其他見所多し又  
誰人の別荘にやあらん風流を極めし家作り  
閑雅なる後庭見るから心地よし湯本よりす  
丁餘にして塔の澤に至り環翠樓に一泊す

上野動物園を訪ふの記

光風生

大路の灰色の埃は屋根に上げられ狂熱の太  
陽は地面に強き光を投げそよも風なき午  
後一時友人數輩と電車を走せて上野公園奥  
清水谷の動物園を訪ひぬ  
園内入口に近き處は老樹枝を交へて日影を  
もろさず地には縞龍のひげなど一面に生  
ひ繁りて宛ら深山の趣をなせり  
此附近にオーストラリア産のベリカンとて  
珍しき嘴の鳥居れど奥にきこゆる鳥獸の聲  
にさそはれて足をとひむる者少なかり余  
も亦歩を轉じて左の方に至るに池あり清泉  
かふれ金魚浮び蝦は戈を揮つて得意の技を

尙まさりて覺ゆ古の世々の帝の行幸し給ひし事  
なご思ひいで  
いにしへの代々のみかどもうべしころ瀧の都さいてま  
せりけれ  
百敷の大宮人のあろびげん瀧つ河内はみれどあかねか  
妹山は一つ離れて木立茂くうるはしき山なり大  
己貴の神ぞ鎮まります。春山は無下に見所もな  
き山なり  
妹山は神さび立てり大己貴神のみいつに神さび立てり  
いも山は神さびたててとせの山は見るかげもなくあれに  
けるかも  
よしの川よへだつとも流れての末はささる妹さ春  
の山  
三年幽棲の跡と傳ふる吉野の西行庵を訪ひて  
何を思ひなにもふけりてみよしの吉野の山に君はす  
みけん  
かりそめの宿さしりつし月花のよしの山やすがみか  
りけん  
同じ所の昔清水をむすびて  
面影のなほとまれる心地してむすぶもゆかし山の井  
の水  
吉野山にて  
よしの山おもひのまの旅ならば一夜は花江やどから  
ました  
大江山を遙かに望む  
丹波路をあまたちくれば大江山雲すさまじく雨ふらん  
ます  
天の橋立  
いつしかさ心にかげし橋立のまつかひありてけふふ  
み見る  
よしの海いふく風を身にしめて松のかげかむ天の橋  
立  
典謝の海へをこぎゆくに第一艦隊とかや疑れる  
して集ひたるを見て  
よきの海こぎたみくればいくさ船こらかしこく集ひ

演下鯉は岩間を我城廓を徘徊する様誠に面  
白し  
其隣なる高き西洋館の中には細き眼を觀察  
にうごきて絶ぬ長き鼻を動かす象あり又  
其隣突き立つたる山の如き脊の駱駝あり山  
月未だ出でざるに凄風俄に起るものは猛虎  
の眼をいからして吼ゆる聲なりさて轉じて  
獅子を見れば其の威風堂々たる流石に百獸  
の王とはうなづかる  
北海道の白熊は己が自由を得ざるを怒り力  
をきかめて奮躍し爲めに室内動きて戸鎖皆  
鳴るインコは美しく孔雀は清らかに鶴は氣  
品高し鳥類の君子は是なるべし  
やさしき鳩はすやしき眼にて我等を見るあ  
ゝ百花たけなはなる花蔭にすやうとねむ  
りたにち入りし天津乙女の眼も汝の如くす  
かしかりけん  
犬は猿をいごみ猿は犬をなぶるライシの水  
は清くすみ歐洲の大亂は圓滿結局を結ぶと  
も犬猿の平和は得て望むべからざらん  
かくして猛獸の聲に耳をうば立てやさしき  
鳥の聲に送られ歩を移す内にいとしか園内  
を一周し了りし辭して門をいづれば惠風そ  
よよ我袂を拂ひ爽快云ふ許なし

和歌

旅行漫吟 新家 園  
水曾路は遅遅まだ疾き残れるに鰭尾の平野には  
早くも夢の種を撒けるを見て  
櫻さく木曾の山路をこぐれば美濃路は夢のほ波たつ

佛都便り (會)  
時は大正丙辰六月三日偶然にも日本海面は  
雪の越路の遠藤君と太平洋面は華の都の鷲  
澤(舊姓坂本)吉澤柳澤三君の四珍客を佛都  
の長野市に迎へ敷に晝食を共にす旭山に霞  
懸ける初夏の薄雲も吹かれ散じける迄の快  
氣焰を謹聴し御蔭を以て山中の阿蒙連啓發  
する所抄からす則ち謝意を併せて一句を物  
すとごなん  
尙四正賓名吟の一二を請ひ受けてせめても  
の忘れがたみとはせり(會)  
若返り昔語りも十二年  
ごこかまだ輪笠の紐のあとがわり  
治一山人(遠藤)

木曾の谷川も伊勢の海近くして空ひたす大河と  
されるを見て  
木曾路川はうき流もながれての末は空をよみたしけり  
かな  
道すて伊勢の國に入る  
神風の伊勢路をさげばしすすに草木もかたる心地  
そすれ  
五十鈴川には河津鳴けり  
五十鈴川清き流の瀬をめぐりて聲もまやかに鳴くかじか  
哉  
内宮 參拜  
あなすよと國の御祖とあふがれて五十鈴の宮にまつめ  
ます神  
神苑に鶴の遊べるに彼の天の岩戸の故事もゆか  
しくおぼゆ  
次方の天の岩戸のものを思ひかへて、鳥籠はなぐち  
え  
二見浦にて  
大神のみここのまに常世波敷波よせていせはよきく  
に  
敵火車北陸、權原神宮など拜みて  
玉だすきかけてすしめ敵火山のじりの御代の遺き昔  
を  
大和の三山を眺めて  
あそひし三山の神のふるこまもいよく、遠く鹿みこ  
めつ  
藤原の宮址も御井の真清水もゆかしけれと尋れ  
やちん方もなげれば  
そびえ立つ三山の影はかはれどあせてあそび御井  
の真清水  
ふじはらの宮の宮あと言さへごこたふる人も耳なしの  
山  
藤原のみやごももみきてみればたゞに霞あり天のか  
ぐ山  
吉野の宮流さへる所は木曾の寝覺の床に似て

花の跡問ふ長野市や  
永き昔を語らん 花婿山人(忠)  
久々に佛の御をばでながくと  
語りあひつゝ、氣烟はき  
一 長腿HERO居士  
珍竹も珍客迎へ嬉しがり  
敷で傾く徳利の味 珍竹T.A.山人  
敷に集る蘇門出が  
八千代を契る酒の香に  
語る話も後や先き 柳澤Y.Y.學人

病氣禁酒中にして意氣銷沈の際なるが故珍  
客四君を迎へたれども快談を交ふる能はざ  
りしが談論風發懷舊の歡談を聴きて快感限  
りなかりき  
快談靜聽  
峰越しの青嵐うれし初浴衣  
老鶯も唄納めけり青あらし 大橋居士  
久し振りに珍客を迎へて見れば光彩男振り  
いよ、まばゆき許り  
雨はれて旭まばゆきさつき哉 曾山隠士  
田舎鳥都の雁にれどかされ  
喉も通らず信濃路の蕎麥 久保田洋舟



謹告

僕客歲十一月卅日縣廳研會主羅御大典奉祝運動會に演技中不慮の負傷をなす本年二月入院手術の止むなきに至り醫に病床黙想録を草するや同情ある恩賜はり感謝に不耐處に御座候幸にも在院僅に三週日にして退院後引き続き昨日迄滿三ヶ月通院加療を受け來り候處茲に全く快癒を告げ名殘惜しくも我が長野赤十字社支部病院と絶縁する事と相成り候間乍憚御安心被下度候毎に各位より御見舞に對し其際直ちに御禮申上げ置きし存念に候へ共或は取落しの有しやも難計候に付き爲念茲に重ねて御禮旁御報申上候 早々不宣

六月十三日朝  
長野市南縣町丙三八寓居  
開石居士 高 樋 博

學校記事

○修學旅行終了 前號所報の二三年級修學旅行團は豫定通りの月程を終へ夫々無事歸校せり尙一年生は五月十八日西澤福山兩教諭に引率せられ妻籠一泊にて田立方面に遠足を企てたり  
○泉水成る 宮川教諭設計の下に各學生徒に依り旅行前より着手せる講堂側の泉水工事は此程完成せり形稍々瓢に似て其括り目に石橋を架す廣さ數坪中に溪澗慈姑等を植ゑ金魚を放ち鯉兒を養ふ課餘時に來りてペンチに踞すれば亦以て心目を樂しますに足れり  
○奉安殿落成 先般來講堂奥の壁を打抜き御眞影奉安殿増築中の處此程漸く落成せり右は式當日に限り奉安するものにして平日は矢張り舊奉安室に納め奉る筈なり

○辯論會 六月十七日午前八時より講堂に於て校友會辯論部大會を開催せり詳細は追て次號に記載すべし  
○綠蔭風爽かにして日愈々長し此時に方りて擊劍に弓術に吾が健兒の元氣潑刺たるを見る悦ぶべく欣すべし

會員消息

○安藤某君 青森縣蟹田小林區署に赴任  
○中垣美二君 山形縣小國小林區署第四沼澤保護區へ詰替  
○種倉隨藏君 朝鮮守備勤務を終へ五月十九日富山第六十九聯隊第六中隊へ歸營  
○西尾長一君 一昨大正三年十二月一年志願兵として豊橋歩兵第六十聯隊に入營終末試験に及第せられ引續き第一次勤務演習應召期末試験も無事通過本年二月廿九日附步兵曹長に任せられたるが五月八日召集解除歸郷目下家業に従事されつつあり  
○南勝右衛門 新田種、渡邊知則三君は今朝鮮江原道廳林務掛に轉任されたり因に南、新田兩君は赴任の途次京城に於て同窓本田樋口二氏と會し一樓に快談痛飲を試みられし由本田氏よりの通信に見わたり  
○日野雅亮君 熊本縣菊池小林區署に轉任  
○清澤己未衛君の計 清澤己未衛君三月廿七日北米合衆國シヤトル市に於て長逝し爲めに朋友知人相會して其遺靈を弔ひ白骨は郷里南安曇郡北穂高村の實家に送り越されぬ君は本校卒業後直ちに米國に渡り沙市に止る事十有一年此間幾多の經驗を積みグロサリを開店し業漸く成らんとし忽ち瘵に胃され一度入院せしが手術後の午後七時て再發し再び入院せしが手術後の午後七時眠るが如く長逝せり嗚呼君は雄才大畧の人天若し年を貸さば其成就する所必ず偉大なものありしならんに忽焉として天折す流涕長大息に堪ふべけんや(太田喜代松氏寄)

本年度卒業生就職地

帝室林野管理局東京支局盛岡出張所  
古畑 秋藏君  
同札幌支局夕張出張所  
柘植 五郎君  
同同苦小牧出張所  
長谷部 久雄君  
同名古屋支局新城出張所  
竹村 節三君  
喜多村 弘君  
同同  
下平 佐門君  
愛媛縣五十萬小林區署  
千田 政美君  
新潟縣五十萬小林區署  
秋田縣北秋田郡木津澤官行  
加藤 源一郎君  
秋田縣北秋田郡木津澤官行  
加藤 源一郎君

林友會領收報告

仲俣 伍郎君  
西尾 長一郎君

大正四年度校友會收支決算

前年度繰越金	金五十錢
運動會剩餘金	金四十七錢
卒業生會員會費	金十七圓六十二錢
在校會員會費	金三百四十七圓八十錢
支出總額	金三百六十五圓四十六錢一厘
雜務部	金百二十九圓五十八錢
庶務部	金十四圓八十一錢
弓術部	金百三十三圓八十九錢
擊劍部	金二十圓三十六錢
擊球部	金二十八圓六十四錢
遠足部	金十一圓四十七錢
差引	金三十九圓七十一錢一厘
金一圓九十二錢九厘	
右決算書面ノ通り相違無之候也	
大正五年六月廿三日印刷	
大正五年六月廿五日發行	

會計係 加藤安太郎  
大正五年六月廿三日印刷  
大正五年六月廿五日發行  
編輯兼發行人 長野縣西筑摩郡島田町四〇四番地 井正夫  
印刷所 長野市四後町丙二十一番地 中澤彌助  
發行所 長野市四後町乙二十一番地 新開社活版部  
長野縣西筑摩郡島田町二八九番地 澤田